

## BIE(博覧会国際事務局)への手紙

私もメンバーである夢洲の都市計画変更を考える市民懇談会（夢洲懇談会）は、BIEに手紙を送ってきた。3月の手紙は私が草稿を書いたので、途中から紹介したい。なお、写真はメンバーの専門家による英文レターである。

万博同様、国際的な大規模イベントである東京五輪は、混迷が続いています。東京五輪・パラリンピック組織委員会・森喜朗会長の女性蔑視発言による辞任をきっかけに、オリンピック開催への国民の不満が表面化しています。最近の世論調査では、8割以上の方が東京五輪の延期ないし中止を求めています。これまでの矛盾も表面化しており、本当に開催できるか危ぶまれています。

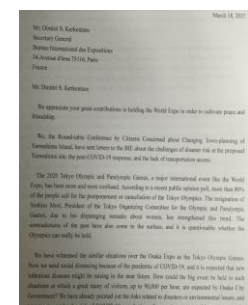
東京五輪と同じようなことが、大阪万博でも起こっています。コロナ禍でソーシャルディスタンスが叫ばれる中、2800万人が一つの会場に集まるイベントなど開催できるのでしょうか。私たち夢洲懇談会は、災害や環境など夢洲のリスクを指摘してきました。それにコロナ禍が加わります。多くの市民はこれらのリスクや矛盾を知りません。オリンピック同様、夢洲を会場としたための混迷が一気に噴出する時期が、来るでしょう。

いま大きな問題になっているのが、万博関係の巨額の経費と負担です。万博協会は昨年、大阪万博の基本計画を策定しました。会場建設費は当初の1250億円から1850億円、1.5倍に膨らみました。会場建設費は、国・自治体・民間の3分割とされています。しかし、コロナ禍で財政は逼迫し、景気は悪化、経済界・市民生活も苦しさを増す中、会場変更の検討すらされていません。

土壌汚染の影響も深刻です。会場へアクセスするための高速道路建設費も、土壌汚染のため700億円近く膨らむと判明しています。加えて最近、地下鉄夢洲駅の予定地で、基準を超える土壌汚染が判明しました。そもそも夢洲は、ゴミ焼却灰や浚渫土の埋立ての材料とした人工島です。土壌汚染による費用増大のみならず、埋立途中の軟弱地盤にトンネルを通す難工事であり、工事費がどこまで膨らむのか、全く見えません。

夢洲会場への地下鉄延伸もIR=カジノ業者が202億円を負担する予定でした。しかしコロナ禍でIRカジノ進出は白紙になりました。万博終了後、跡地利用のIRカジノが開業されるとしても、少なくとも約5年先です。地下鉄本体の経営も急激に悪化する中、万博のための延伸部に乗る客はなく、大きな経営リスクとなるでしょう。

東京五輪の厳しい現実から、大阪万博も学ぶ必要があります。アフターコロナの国際的な大規模イベントのあり方、とりわけ会場計画の抜本的な見直しが求められています。将来の禍根を残し、万博の負の遺産として記憶に残すことのないよう、BIEに問題点を知らせていただくために文書をしたためます。長い歴史をもつ万博の原点に立ち返り、BIEの真摯な再検討を求めるものです。



(2021年4月5日)